



パートナー通信安曇野 第5号

2009.6.12

発行:NPO 法人信州ふるさとづくり応援団安曇野支部

編集:木船



「第6回ふるさとウォッチング in 安曇野」開催！
今回は三郷の中萱・住吉地区。ふるってご参加ください。

みみより情報

7月5日(日)に第6回ふるさとウォッチング in 安曇野を開催いたします。今回は三郷の中萱・住吉地区周辺。貞享(じょうきょう)義民騒動にまつわる見所が多く、中でも比較的最近確認された加助の供養塔が興味深い。貞享義民記念館では特設シアタ



貞享義民記念館

ーでの無人寸劇「貞享義民物語」の鑑賞と学芸員の解説により、楽しく歴史を学びます。

また、大同年間(9世紀初頭)建立ともいわれ安曇地方

成立の歴史ともゆかりの深い住吉神社は、その境内に樹齢千年の桧や八面大王伝説にちなむ坂上田村麻呂の立像などを擁し、とても神秘的な趣があります。

ぬか
くどご
飯と味
噌汁も。
ふるっ
てご参加ください。



住吉神社

※1 貞享義民騒動；貞享3年(1686)に松本藩で起きた百姓一揆。松本藩による課税(年貢米)の理不尽・不正を問いただし、1万人の農民が松本城を囲んだ。三郷の庄屋多田加助をはじめ、指導者ら28人が斬首されたが、これにより担税感は緩和され、200年後の明治期には自由民権運動の先駆的モデルとして脚光を浴び、近代史にも少なからぬ影響を与えた。

報告 ①

東京銀座の「ふるさと回帰センター」で 田舎暮らしセミナーを開催しました！

去る6月6日、初めての試みとして「安曇野田舎暮らしセミナー」を、NPO「ふるさと回帰センター」の銀座情報センターにて開催しました。来場者は約30人、同センターの方のお話によれば、他地域のセミナーに比べて盛況だった



ということです。

安曇野市の説明、当NPOの活動紹介、Iターン者の安曇野体験談、安曇野の不動産物件の特徴についての説明、そしてその後の

個別相談会と、かなり盛りだくさんの内容でした。

移住を希望される方にわれわれの活動が少しでも役立てば、このセミナーの価値があると思います。このセミナーを今後も継続していこうと思っています。

「安曇野の湧水」とお菓子もとても好評でした。(望月)

報告 ②

「第5回ふるさとウォッチング in 安曇野」を開催しました。

去る3月8日、安曇野の魅力を再発見するウォーキングイベント「第5回ふるさとウォッチング in 安曇野」を、開催。市内外から100名以上の方に参加いただきました。堀金の上堀、烏川、田尻、中堀を歩きながら、白井吉見や臥雲辰致、平倉六郎右衛門など地域の偉人の業績などを学びました。今回も参加者の皆さまからいただいたアンケート結果について簡単にご報告致します。



白井吉見生家にて。

まず「印象に残った場所」はどの間に対しては、「町並と屋敷林」25%、「拾ヶ堰」20%、「吉見生家」16%、「田

園風景・山並」14%、「吉見文学館」11%という順で、比較的全体に関心が行き渡った印象があります。「次回の希望地は」という問に対しても、「町並と屋敷林」27%、「堰や湧水等の水辺」26%、「田園風景と北アルプス」24%、

「道祖神や社寺などの名所旧跡」21%とやはり関心は全体に渡っており、これらが安曇野らしさを味わう上で欠かせない要素であることを物語っているようです。

「また参加したいか」という問には「是非」58%と「場所季節次第」41%を合わせて99%と、催す側としてとてもうれしい反応を頂いた一方、「さらに充実させるには」という問に対しては、「回数を多く」33%と「人数を少なく」30%が圧倒的で、やはり今回もスタッフ不足が大きな課題であることが浮き彫りになったと感じています。レギュラースタッフを増やすことはなかなか難しいことで、悩ましいところです。催す側に参加してみたいというパートナーの方大歓迎です。ぜひ事務局までお問い合わせください。



拾ヶ堰と安曇野排水路交差付近を歩く。

報告 ③ 「環境パネル展」と第4回「給食祭り」でめかくどご飯実演。共に大好評。



↑めかくどご飯実演。安曇野市環境基本計画推進会議主催の「体感！環境パネル展」。

環境思いの活動グループが集結(2月28日開催)。



安曇野市内の小中学生の母らでつくる「豊かな学校給食を考える会」が主催する「給食まつり」の様子。基本のテーマは食育。今回はフードマイレージについて学んだ(3月22日開催)。

報告 ④ 安曇野フランドデザイン会議「三角島プロジェクト」発足イベントに参加しました。



この日だけですが、それをよりよく保全するため、アセチウリとの格闘が始まる。

むなかたあきら

宗像章

です。

コラム ④

《当NPOの活動、安曇野などについて縦横に語ります。》今回は

『不思議な体験』

安曇野の五月、穂高神社の境内では「大遷宮祭」が厳かに執り行われました。近在近郊から多くの善男善女がこの地、安曇野穂高を参拝されたことと思います。私も新たな気持ちを持って新社殿に頭を垂れてきました。

私が「信州ふるさとづくり応援団」に参加したのは、会社人間として定年を迎え、今まで省みなかった「故郷」に目を向けたからでした。そして、この会の活動を通じて安曇野を北から南まで歩

くことにより、故郷への理解を一層深めることが出来ました。とりわけ、安曇野と「宗像(むなかた)」の関係について改めて回想できたことは、特にありがたく感じるどころです。

宗像と安曇族は、共にその起源を神話、北九州、「海人族(あまぞく)」に求められます。記録によれば、磐井(いわい)の乱(507年)から大化の改新(645年)後にかけて、大和朝廷は日本国を広く直接統治するという政策のもと、蝦夷を制圧する要衝としてこの

地に国府を設置したとのことです。そしてこの国府役を担ったのが「海人」である安曇族だったという見方が、有力な説として存在します。この安曇族のたどった北航路(日本海沿岸ルート)の途上にあるのが「宗像神社」であり、そこには安曇族による安全祈願の跡が記されております。

地元の歴史を紐解きつつ、このようなことを最近になって勉強できたことは、この会への参加抜きにはなかっただろうとしみじみ感じております。(宗像)

はじめまして ④

《「信州ふるさと作り応援団」のスタッフを紹介します。》こちら

むなかたあきら

宗像章。

上で本人が控えめに書いているが、我が国の創史とも関わる氏の宗像章は、日本と安曇の古代史に人一倍の関心を寄せる。

氏曰く、「安曇の古代史を語る上で明科は外せない」、曰く「新米は新嘗祭が終わるまでは食べるべきではない」、曰く「本棟造りにはチベットの建築に通じるものがある」など、氏の発言には思わず「それもっと詳しく！」と言いたくなるようなものが少なくない。

実は彼は一級建築士である。しかしだからといって、安曇野の本棟造りを見ながらチベット文化に思いを馳せることは、あまり一般的ではないだろう。

そう、関心と洞察がとてつもなく広くて深いのだ。そう言えば大町で田んぼを作っているとも言っていたし、信大生相手に農業指導もしているらしいし、ついでにどぶろく作りは名人中の名人...。どこか神がかった感じの人だ。まあ先祖が二千年も前から祭られてい

るのだから不思議はないか。

その風貌がどこか司馬遼に似ている氏の目下の課題は、安曇野の屋敷林の調査とその記録保存。いっそこれを『街道をゆく～塩の道/安曇野編～』とでもまとめてはくれまいか。(木船)



ふるさとを読む ②

《書評》田舎暮らし、安曇野に関わる図書へ当NPOスタッフがご案内します。

青木治著『穂高神社とその伝統文化』(1988年 穂高神社社務所刊 321P 定価 3,500円) ~安曇野は悠遠な太古の神話的景観を保つ~

1988年とは前回の「大遷宮祭」の前の年に当る。本書はその様なタイミングで穂高神社が自ら出版したもの。

これによると穂高神社は、「安曇族(族)の祖として仰がれる穂高見命を奉祀し、興りは稲作文化を伴った弥生時代」とされる。「ルーツは遠く福岡市志賀島の『志賀海神社』。ここから発祥した海人族の一派である安曇氏は、「朝鮮半島との外交や稲作の普及に努める」と共に、「朝廷の内膳奉行としても重要な役割を果たしていた」という。しかし「792年

朝廷の檄にふれ遠流」される。これを機に「日本海を北上」した安曇一族は、「信濃川沿いに南下しやがて安曇野に定住」することとなった。この時かれらをして信濃川沿いに歩ませたものが、「産卵のため遡上する大量の鮭だった」とされる。「定住後は、犀川、高瀬川、穂高川等から鮭、数の子を始めたとした多くの水産物を全国へ出荷」。その規模は「近畿北陸よりも多く、全国一であった」という。

安曇野から松本にかけて御船祭り

という伝統行事が現代に伝えられている。おのずと「なぜ山国信州で御船祭りなのか」との疑問が湧くが、大波にもまれる海人族安曇氏の漁労航海の古代船と、激しく揺れ軋む勇壮豪快な祭り船とを重ねてみれば、この問は無理なく解けるだろう。

「穂高神社とその伝統文化」は古代から親しまれてきた至高の遺産の一つであり、全国に誇れるものであることが本書を読むとよく分かる。

(佐伯)